



# 学校だより

令和3年1月13日 上田市立第二中学校 No.10

## 一<sup>くんにゅう</sup>国の隆盛は郡邑から ~校長講話：山極先生・小河先生・飯島先生の命の輝き~

二中の地で同じ時代に学校生活を送り、巣立った私たちの先輩について、校長先生にお話をいただきました。

松平学校(二中の前身)を経て上田変則中学校(現上田高校)に入学した山極先生は、卒業後、東京大学医学部に入学します。

この頃チフスが大流行します。当時の日本は開国直後であり、対応できる病院も薬も医師も不足し、多くの命が奪われていました。その現状に山極先生は胸をいためます。28歳でドイツに留学し、生涯の師となるウィルヒョウ博士と出会います。「人のためになることを地道に実行せよ」と常に語り、「細胞は他からの刺激によって変化する」という「細胞病理説」を唱える博士の教えは、山極先生の癌研究の基盤となります。

日本に戻った山極先生は、自身が肺結核という病気に侵されながらも、兎の耳に刺激となるコールタールを塗り続け、癌を発生させる実験に取り組み始めます。しかしこの実験は困難を極め、周りから奇異に見られる時期もありました。それでも実験を続けて2年後の1915年、一匹の兎に癌細胞が発生します。

「癌出来つ 意気昂然と 二歩三歩」有名な山極先生の歌です。『胃癌発生論』を社会に発表してから10年後、この研究は世界に広く反響を呼び、1921年にはノーベル賞候補になります。

その後山極先生は、東京大学で学生の指導と研究を進めますが、1930年に67歳でお亡くなりになります。現在東京大学医学部病理教室の入口には、山極先生の胸像と解剖台が掲げられ、その功績をたたえています。

上田藩に生まれた小河先生も、松平学校・上田変則中学校を経て、上京します。

小河先生は、東京専門学校(現早稲田大学)の法律専門学科に入学、さらに東京大学法学部に進み、罪を犯してしまった人にどんな教育をすべきかを追究する「監獄学」の学問を始めます。

小河先生は「罪を犯した人は厳しい規律の生活は必要だが、それは出獄後のためであり、人権は尊重されるべき」「幼年の犯罪者こそ愛情をもって接するべき」と考えます。1902年浦和監獄川越分監では、子どもを「さん」づけし、教育の機会をとり、地元行事にも参加させるなど、子どもを感化して更生させる取組をしました。ところが政府はこの取組を受け入れず、小河先生は全ての役職を解かれてしまいました。

1913年、小河先生に、全国最大の米騒動で貧しい人があふれていた大阪の大久保利武知事から、救済事業顧問の要請が来ました。小河先生は、「救済事業は“お情け”ではなく組織的・計画的に行うべき」と考え、方面委員制度(小学校通学区担当の方面委員が、生活状態調査と生活改善により、個に寄りそった対応をする)を立ち上げます。

この制度は高く評価されて全国に広がり、現在の民生児童委員制度に繋がっています。

飯島家の長男として生まれた保作先生は幼いころから手先が器用で、1873年、上田街学校に入学、卒業後学校に教員補助として残ります。

その後退職し、家の仕事に従事しながら独学で狂歌や川柳など様々な雑誌に「飯島花月」の雅号で投稿し、上田地域の庶民文学のリーダーとして活躍を始めます。文化人としての花月先生は、生涯をかけてたくさんの古書を収集し、現在8715冊の古書が上田市立図書館に「花月文庫」として保管され、今も江戸時代の貴重な資料として利用されています。

また実業家としての保作先生は、上田商工会の創立に深くかわり、現在の上田商工会議所の基盤を作ります。1919年には、第十九銀行頭取に就任し、銀行経営に携わります。

1930年、世界恐慌が起こり、県下最大の信濃銀行の経営が破綻します。その結果、主要産業である蚕糸業を支える農村に大きな被害をもたらします。保作先生は、松代町にあった第六十三銀行との合併を進めます。6月、合併の仮契約を締結、8月に八十二銀行が発足します。しかし、八十二銀行発足の前の月、保作先生は腸チフスに感染して69歳で急逝されます。県下の財政安定のために奔走し、飯島先生の残された基盤は、今も上田の経済を支えています。

同じ年に生まれ、上田を故郷にそれぞれの道を「人のために尽くす」という同じ思いをもち、生涯を生き抜いた私たちの先輩は、本校の門を後にしています。上田出身の先輩たちが互いに思いを書き綴り、励まし合ってきた仲間に「上田郷友会」がありますが、当時の月刊誌「月報」の創刊号に、山極先生の文章が残っています。

「目を世界に開け。日本は東洋の島国ではあるが、長く独立を保ち、日の輝く国として歩んできた。私たちが郷友会を作ったのも、どこの郡にも負けない上田を作ろうと思ったからである。それが日本の国を支えることになる。」

私たちがこうした先輩の生き様を胸に、志を高く歩み続けたいと思います。

# 生徒会は引き継ぎの時へ



先月17日(木)に、令和2年度前期生徒会の締めくくりとなる生徒総会が行われました。

3密を防ぐため、2年生は体育館にてソーシャルディスタンスを確保して参加し、1・3年生は各教室でのTV放送を通しての参加となりました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、思うように活動できない場面もありましたが、限られた条件

の中でも、何ができるのか考え、できることを地道に積み上げてきた3年生の姿は、後輩である1・2年生の心に大きく残るものでした。これからの生徒会に活かされていく思いがしました。

また、18日(金)には生徒会引き継ぎ会も行われました。3年生がこれまで取り組んできた具体的な活動について、活動の意味や方法を伝え、使用してきた大きなファイルを2年生に手渡していました。

これまで二中の生徒会を先頭になって導いてくれた3年生が、2年生に力強くバトンパスしました。まだ新型コロナウイルスの感染状況は厳しさを増していますが、2年生がどのような活動を展開し、新たな二中を創造してくれるのか、大いに期待しています。



## ～振り返りから～

### 【3年生】

今年は、予定していた活動ができずに、何ができるのか考え直すことがありました。でも、感染予防をしながらできることを考え、小さなことでも活動しようと委員の皆で協力できたことが嬉しかったです。ついてきてくれた委員に感謝したいです。卒業まで、委員として支えていきたいです。

### 【2年生】

生徒総会がありました。コロナで大変だったけれど、これまで3年生の先輩は二中を引っ張っていただきました。引き継ぎ会の時、活動内容説明していただきましたが、これを自分たちが実行すると思うと、一気に緊張してきました。3年生の皆さんに、本当にお疲れ様でした、と伝えたいです。

### 【1年生】

生徒会がどういうものなのか、先輩の姿から一生懸命学んできた1年間でした。これまで各委員会がそれぞれの活動をしてきて、生徒総会で二中のために何をしてきたのか、堂々と語っていたことが心に残っています。私も、二中のために努力できる役員になりたいと思いました。

## 連絡

新型コロナウイルスの感染が全国的に心配な状況であり、家庭内感染というケースも多くなっているようです。これまでと同様、ご家庭での感染予防を徹底するとともに、三学期も健康観察を丁寧に行い、本人や家族に発熱や風邪症状がみられる場合は登校をお控えいただきますよう、今後ともよろしく願いいたします。

## ☆☆△▲今後の予定○●□■

1月13日(水) 城北PTA連合会総会②	11日(木) 建国記念の日
15日(金) 学年費引落日	12日(金) 1・2年3学期期末テスト②
25日(月) 中学校説明会	15日(月) 学年費引落日
28日(木) 漢字検定	16日(火) 公立前期選抜合格者発表
2月 1日(月) 前期志願受付～3日(水) 学年学級PTA	18日(木) 地区生徒会
4日(木) PTA総委員会・評議員会	20日(土) 人権フェスティバル
8日(月) 公立前期選抜試験① 給食費引落日	21日(日) 人権フェスティバル
9日(火) 公立前期選抜試験②	22日(月) 公立後期志願受付～25日(木)
10日(水) 1・2・3年3学期期末テスト①	23日(火) 天皇誕生日
	26日(金) 志望変更～3月3日(水)